

山首上人さまご講演

持^じ 戒^{かい}

生^いき方^{かた}の基^き本^{ほん}



アジサイ

心を落ち着けて正しい目標を定めましょう

持戒

「**傲慢多き者には持戒の心を起こさしめ**」

(無量義經十功德品)

傲慢というのは、本当のことを知らずに知ったかぶりをしている人で、世の中の人とはこうありがちです。

正しい教え、正しい目標もなく一生を終わったならば、まことにあわれむべき者となってしまうです。

自分の一生は菩薩修行であり、仏の子と

しての修行をせねばならぬと思わなければなりません。

世の中の迷っている人々を、自分の力の及ぶところで救い助けねばならぬのであり、実に容易ならぬ大仕事と責任があるのであります。

|| 御開山上人著・現代生活の指針 ||

今日一日の菩薩修行

「持戒」は戒を持つということですよ。

ろくはらみつ 六波羅蜜の二番目に説かれています。杉山
せんせい 先生は「非を防ぎ、悪を止め、善い行ない
をする事」と、積極的な信仰を勧めてお
られます。

「戒」と聞けば「戒律」を思いますが、戒
と律にはそれぞれ異なる意味があります。

「戒」は自分で決めることです。ですから、
守れなくても現世に於ける罰則はありませ
ん。一方「律」は法律の律でありますから、
破ると罰則があります。

最初に、世の中の人には本当のことを知ら
ないと言われています。テレビや週刊誌
を見ていれば世の中の大体のことは知るこ

とができますが、それは目の前の動きを知
ったというだけで、人間として肝心なこと
とは言えません。

この世界を生きてゆく上で大事なことは、
そうした知識ではなく智慧Ⅱ仏智でありま
す。本当に大事なことは何か、ということ
です。これが普通の人にはわかりにくいの
です。

人生いろいろなことがあります、テレ
ビや週刊誌で知った知識だけで足れりとす
る一生はむなしいものです。そういう人生
に陥らないためには、自分の一生を菩薩修
行の一生としてゆくことです。言葉で心で

行ないで、仕事を通して立場を通して、まわりの人を力つけてゆくのです。そのために私共は生きているのです。

人はよく、楽しいことはないか。いいことはないか、と言いますが、自分の一生が菩薩修行の一生であるなら、根本的に考え方を変えなければなりません。日蓮宗の大家荒行のような行は別として、人生が修行であるなら、思うようにならないことが二つ三つあつてあたりまえ、となります。そういう気持ちでゆくことが大切です。

人間は一人で生きているわけではありません。多くの人の力を頂いてこそ、生きてゆ

くことができるのです。そうした中で、自分が生きるということは何はともあれ、まわりの人を力つけてゆくというのでなければなりません。それが菩薩としての生き方であります。

菩薩にもいろいろあつて、絵に書かれるような立派な菩薩もあるでしょうし、駆け出しの菩薩もあると思います。修行で言ったら今はまだ一番下かも知れませんが、とにかく自分のできることで人を力づけることをしてゆくのです。それが杉山先生や御前様のおっしゃる菩薩修行であります。

戒は自分が決めること、と最初に申しま

した。その第一歩として心がけて頂きたいのは、今自分が菩薩修行をするために一番足りないと思っていることを誓い、実現できよう努力することです。堪忍をしよう、施しをしようといったことです。そしてそれを「いつまでも」と考えるとむづかしくなると思いますが、一つ一つ「今日一日できたらいい」と考えてゆくといいと思います。

「今日一日」でいいのです。私はいつも夜寝る時「今日一日ありがたかった」と自分に言い聞かせるようにしていますが、世間の人々は「今日がよければ明日も明後日も、

来月も来年も」と求めるようです。しかし、そんな先のことは誰にもわかりません。欲張らなくも、今日一日できたらそれでいいのです。

「今日がありがたかった」ということは、今までありがたかった」ということにながり、人生そのものに感謝が生まれます。要は「ありがたい」という心が持てるかどうかということです。

明日のことなど考えず、今日一日、今日一日と区切って考えてゆくといいと思います。明日のことは明日になったその時に考えればいいのです。

人生の基本

「今日一日ありがたかった」という基本的な感謝が持てると心に落ち着きが出てきます。重心ができるのです。逆に心がふらふらゴチャゴチャしていると、自分に自信が持てなくなってきました。何か新しいことをしようとする時、心に重心がないとこんなことでいいのだろうか」と、自信より心配が先に立つものです。

その一例として「子育て」があげられます。子どもを育てるのは大変なことです。殊に最初の子となると、わからないことだらけだと思います。電化製品のように「取

扱説明書」があればどんなに便利かと思

いますが、そんなものはありません。「育児書」はいろいろあっても、人間は一人ひとり皆違いますから、ぴったり当てはまることはありません。仕方なく見様見まね、自分で考えてやるしかありません。考えてみれば「無免許運転」と同じです。

かく言う私も最初の子どもでしたから、親はさぞ苦労したと思いますが、今となつては元気に育てて頂けたのですから、感謝の言葉はありません。

多くの人の中には、講習会で勉強して頂いて、免許証を取得してから「子育て」に

当たってもらいたいと思える人を見受け
ます。そういう人のために、何らかの制度を
考える必要があるかも知れません。

人生心配なことはいろいろありますが、
大事なことは、心を落着けて事に当たる
ということです。

心を落着けるにはやはり、この世界の
真実の姿を知る必要があると思います。

法華経・方便品に「諸法実相」が説かれ
ています。方便品から徐々に、法華経を聞
いて菩薩修行をすれば誰もが仏に成れる
と説かれてゆきますが、その根底に流れる
思想が諸法実相であります。

「諸法」とは、この世界のすべてのもの
ということです。もちろん人間も入ります。

そして「実相」とは、すべてのものは真実
の相を持ち、他と比べることのできない
ごさを持つている、ということです。

私は貧乏で智慧もないつまらない人間だ
から、菩薩修行なんてとんでもないとい
う人がいたら、その人は法華経の心を知ら
ない人です。

人間は、人と比べてどうこう考えるから
心が落着かないし、自信が持てなくなる
のです。たしかに才能や地位・財産を比べ
たら、いいとか悪いということはあ

よう。しかし一人ひとりを考えた場合、その人はその人で絶対です。たとえば加藤さんでも鈴木さんでも、その家の長男はこの世界に一人しかいません。長女も次男も同じです。最近ではクローンと言って、羊など同じ動物を作ることができるようですが、人間はそんなことできません。その人の代りはできても、その人になりきることはできません。その人はその世界にたった一人しかいないのです。これ以上尊いことはありません。

仏さまの世界に住む私共です。人と比べる必要は全くありません。まして、人と比

べてみてたとえ劣る点があったとしても、落ち込む必要はさらさらありません。

人間は本来それで充分。一人ひとり皆、輝いている」と説く法華經の諸法実相を、胸を張って信仰してゆきたいと思います。

人生いいこと悪いこといろいろありますが、生き方の基本としてお考え頂きたいことは、抽象的な言い方になりますが、その時も良く、後で考えてもやっぱり良かったという事です。その時は良かったけど、後から考えたら良くなかったとなると、良かったと思っていたことが実は悪いことだった、となります。

長い人生を考えると、苦しいことに^で出^でく

わすことは必ずあります。それをガマンしなければならぬのは辛いことですが、その苦しみを乗り越えられた時、あの時ガマンして良かったゝとなると思います。その経験は自分の中に生きた体験として長く残^{のこ}ってゆきますから、先々大きな力になるに違^{ちが}いありません。何事も、結果的に見^みてゝあの時のあのことが良かったゝと思^{おも}えるよう、菩薩修行に励^{はげ}んで頂^{いた}きたいと思^{おも}います

す。

自信が持^もてなくて心^{こころ}がふらふらしている^{すこ}と、少しのことにも氣^きが散^ちつて、正^{ただ}しい姿^{すがた}が見^みえなくなつてしま^います。せつかくこうしようゝと誓^{ちか}つたことも崩^{くず}れやすくなります。そこで大切になるのが、ありがたいゝという心^{こころ}を心^{こころ}の中に持^もつことです。そうすると心^{こころ}が落^おち着^ついて、正^{ただ}しい目標^{もくひょう}が見^みえてくるであらうと思^{おも}います。